

# 大会宣言 (案)

新座市のお母さん、女性のみなさん、男性のみなさん  
新座母親大会は、今年で四十三回目を迎えることができました。

今年八月、第六十三回日本母親大会が岩手県盛岡市で開かれ、全国から一人近一人たちが集まりました。「子どもたちを核戦争から守ろう」というスローガンのもとに始まった母親大会は、さらに広く、平和・くらし・教育・環境・男女平等などへ問題がつながる一大女性運動として発展しています。

依然として「女性の貧困」と「子どもの貧困」が社会問題化しています。子どもの六人に一人は相対的貧困状態にあると言われ、シングルマザーはもちろん、子どもを育てる環境・条件は厳しくなっています。長引く不況で国民生活は大変です。非正規雇用・不安定雇用の若者が将来に希望が持てず、夢や結婚をあきらめざるを得ない現状もあります。

消費税一〇％への引き上げが計画されていますが、とんでもありません。不況の泥沼となる不公平税制はきっぱり中止させましょう。私たちの暮らしを守る政策を国・地方自治体に強く求めます。

教育の分野では、現在、小学校一・二年生で三十五人学級が実現しています。しかし、三年生以上は四十人学級のままです。私たちは、三十人学級の完全実施を早期に実現するように運動を進めていきます。

今年は九州を中心に地震や台風の被害が続き、地球温暖化現象は年々進みます。東日本大震災から六年半、復興はなかなか進みません。原発も国民の世論を押し切って再稼働されようとしています。地震国の日本、原発の再稼働は許せません。

世界では、平和で公正な社会を求めるうねりが高まっています。国連では「核兵器禁止条約」の批准が始まり五十か国以上が賛成しています。唯一の被爆国である日本が批准に背を向けることは、許せないことです。世界の人々の願いは、戦争も核兵器もない平和な世の中に暮らすことです。その中でもわが国の日本国憲法第九条は、「戦争放棄」を理念として輝いています。私たちは草の根から憲法を守り発展させる運動を、これからも進めていきます。子どもたちに平和と明るい未来を手渡したい、それが私たちの切なる願いです。憲法を深く学び、国、県、新座市にその精神を生かした政策を実施するよう要求していくことが急務です。

いのち  
生命を生み出す母親は、いのち  
生命を育て、いのち  
生命を守ることをのぞみます。

女性も男性も生き生きと働き、豊かな生涯を過ごせるよう運動を進めていくことを新座母親大会の名で宣言します。

二〇一七年十月一日

第四十三回新座母親大会